

F 1 が疾走する街（福岡 F 1 グランプリの提案）

1.はじめに

オリンピック、サッカーW杯に並んで世界三大スポーツイベントと称されるF（フォーミュラー）1グランプリを福岡の、しかも市街地で開催できないかと考え、提案いたします。

2.提案の背景

日本では、いままで富士スピードウェイ、鈴鹿サーキット、TIサーキット英田で開催されましたが、いずれもサーキット場での開催であり、市街地コースでの開催は一度もありません。

モナコグランプリに代表される市街地コースは、非常に華やかで迫力があり、開催される都市を国際的に印象づける大きな力を持っています。

福岡は、天神から博多駅にかけてのビルが立ち並ぶ商業地域、市街地に存在する大濠公園、西公園等の広域公園、福岡タワー、ドーム球場等のシンボル施設等、コンパクトな中にバラエティにとんだ施設を持った都市であり、魅せるグランプリの開催場所として、非常に魅力的な都市であると考えます。

福岡市街地サーキットを使ったF 1グランプリの開催により、福岡を文化的な国際都市として世界に認知させ、観光・文化の拠点づくりにより、より一層の活気を持つ都市づくりをしていこうと考えました。

3.福岡市街地サーキットの概要

F 1グランプリが開催されるサーキットは、コース延長4～6km程度、コース幅10～15m程度となっています。

これにコントロールタワー、ピット、グランドスタンド等の施設が付随しております。

3.1 サーキット概要

- **コース延長（L = 6.0km）**

F 1グランプリは、距離300kmを走破するか2時間の枠でレースを行うので、距離300kmを縛りとした場合、6.0km程度であれば、コースを50周することとなり、観客が十分にレースを観戦できます。

- **コース幅（W = 10m～30m）**

昭和通りを例にとると、車道幅員13.0m程度であり、中央帯を撤去

(レース後、取外し式として復旧)して、車道部の左右にタイヤバリヤー等の安全施設を設けたとしても、コース幅10m以上が確保できます。

また、歩道幅は6.0m程度あり、小規模ながら観戦スタンドも設置可能と考えられます。

- 付随施設(コントロールタワー、ピット、グランドスタンド)

市街地サーキットは、普段、一般の交通に利用されるため、仮設による施設整備が必要となります。

当提案では、平和台球場跡地、陸上競技場を利用し、仮設の施設を設置することとしました。

- その他

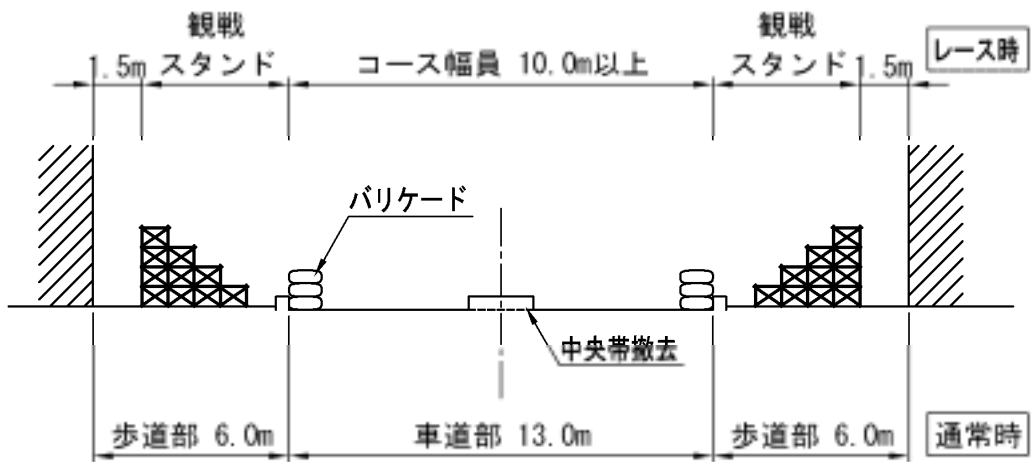
今年の10月に行われた鈴鹿サーキットにおける日本グランプリでは36万人もの観客が訪れており、郊外型サーキットの問題点として、宿泊施設、飲食店(特に夜間)、観光等の不足が問題となっている。

福岡は、周辺都市も含め、宿泊施設、レストラン、レース前後の観光地も充実しており、十分対応可能であり、市街地サーキットの利点と考えられます。

コース案(天神~大濠公園ルート)



コース幅案



4. おわりに

実現にむけては、信号・標識の撤去・復旧、病院施設等への騒音対策、地域住民・道路利用者等との合意形成、安全性の確保、医療体制の確保等、道路使用許可等、問題は山積みであります。

今回、天神 - 大濠公園を軸としたコースをケーススタディーとして提案しましたが、福岡は、他にもすばらしいロケーション豊かな地区が隣接する都市であり、これらの資源を有効に活用できるコースが多数あると予想できます。（例えば、福岡タワー、ヤフードーム周辺）

F1の経済効果は、50億円とも100億円ともいわれています。

また、福岡におけるオリンピック開催は、九州全体の夢であり、九州を世界にアピールできる格好の場と思われましたが、残念にもかありませんでした。

このような背景のなか、本提案である市街地を舞台としたF1の開催は、非常に意義のあるものと考えられます。